

553 大学問題と中央大学学員の会合

〔『法学新報』第29巻6(331)号 大正8年6月1日〕

○大学問題と中央大学学員の会合 吾人は前号に於て中央大学の発展計画と題し中央大学関係の諸同人か時勢の進運に伴ふべき完全なる設備を整へ同大学をして速に模範大学たらしめんことを画策しつつある模様の大体を報道し置きたるか今茲に多少の重複を厭はず詳細に右問題に関する學員諸氏の活動を記述せん左の如く各種団体を區別して順次に之を掲ぐるを便とす尤も各会共遺憾なから記録の存するものなければ記事に多少の錯誤脱漏の角なきを保し難し因に去る三月十日日本俱樂部に於て開催したる學員側委員と社員側委員との聯合協議会及び其後に於て各所に開かれたる各部会の模様は次号に於て中央大学記事中に報道することとすへし

中央大学同窓而立会 同会は客年十二月十四日午後六時より神田万世橋駅上「ミカド」倶楽部に於て会員間の親睦を計るべく忘年会を開きしか時恰も大学令問題喧嘩際とて来会者頗る多数に上り先づ席上の協議として将来同会には任期を一箇年とせる若干名の協議員を置き之を各年卒業生中より二十名以下の割合にて選任し緊急の必要ある場合は其都度總會を開くことを省略し協議員会の決議を以て同会の決議と為し得ることに改めたり次に集会せる会員は期せずして大学令發布に伴ひ母校をして率先大学令に依る大学たらしむるを緊要事とし満場一致を以て母校に対し次の如き建議を為すことを決議せり曰く『今や大学令公布せられて吾邦教育界の空気は茲に一新せり吾人就て該規定を觀るに其憾みとする所のもの固より尠からずと雖も吾等同人多年の宿論にして採用せられたるもの亦鮮しとせず惟ふに新大令の成立は斯界に於ける慶事なりと称すへき歟吾人は切に望む此際母校の当局か天下に率先して遠く文運の趨く所を察し近く新令の要むる所を酌み速に最善の設備を整へ吾譽をして大学の模範たらしめんことを吾人不敏と雖も學員七千の駿英と共に同心協力満腔の熱誠を傾倒して堅忍不拔万往勇進以て万難を排除し以て母校の前途を開拓せんことを期す諺に云はずや断して行へは鬼神も之を避くと実に今を其秋なりと為す何ぞ因循して永く惰眠を旧巢裡に貪はらんや惟ふに母校創立以來三十有余年其養ひ来れる剛健質実の校風か産む所の實力は今日即ち一時に發揮せらるべく此力を以て此事に當る天下是よりも為し易きこと之なからん従て吾人は当局か万万機宜を失するなきを疑はず

と雖も一片愛校の衷情黙し難きものあり茲に臨時總會を開き満場一致の決議に依り吾人の切なる期待を陳へ愚衷を披瀝すること爾り希くは焉を諒とせられんことを」上叙の趣旨に則り吾人は左の事項を建議するものなり一、第一著手として速に母校の組織を変更して財団法人と為すこと但し理事の数は時勢の進運に鑑み従来よりも増加すること一、學員其他より此際更に基金の臨時大募集を断行すること大正七年十二月十四日』右建議は同年十二月二十日同会幹事より岡野学長に進達せられたるか同会に於ては右建議の趣旨を貫徹すべく決議書を印刷して母校の社員一同、學員会理事評議員等に配付し又会員中の有志は随時母校関係者先輩等を歴訪し一面同会は実業同窓会、同窓記者会及び中央大学学士会等と聯絡を図り母校の大発展策を実現すべく活動を繼續しつつあり

中央大学学士会 新大令の公布あるや中央大学学士会會員諸氏は期せずして母校の發展策に付き執れも憂慮する所ありしか時恰も年末年始多故の際に当り会合を催して其意見を交換するに由なく同会会長並に理事は本年一月十一日午後五時より神田万世橋駅内「ミカド」に於て新年宴会を兼ね母校刻下の重大問題に付き協議會を開催せんことを決定したり時に大正八年十二月二十五日なりき爾来同会役員は會員諸氏を歴訪して意見を徵し其愈開會当日と為るや各方面の新年宴會に忙殺されつつある當時なるにも拘はらず多数の會員出席せられ和氣霽靄の裡に會食を了し次で直に当日の議事に移り石山會長議長席に就き天野理事は有志諸氏より提出せられたる議案を朗読す次で常田氏は

報告を為さしむ右了るや岡野学長は拍手に迎へられて起立し先づ本問題起りてより以来學員諸氏より組織せらるる各種の団体より種種なる建議あり当局として誠に心強く感じ誠意誠心感謝に耐えず願みれば本學學員諸氏は母校を愛せらるるの情最も深く事ある毎に多大の出捐を惜まず以て母校の發展に全力を傾注せらる二十年記念講堂、二十五年記念講堂、三十年記念基金等の挙に徴して之を本學の天下に誇るべき一大美風なりと謂はざるへからず而して今又刻下の大問題に付熱心に尽力せらるるは吾吾当局として茲に厚く謝意を表せざるを得ざる旨懇切に述べられたる後当局として新大學令公布後今日まで執りたる行動を詳細に報告せられ更に大學令に対し極めて痛切なる批評を試み且旧臘中開会の社員總會の模様を報告すると同時に母校の現況を備に説明せられ尚ほ馬場理事よりも一二補説する所あり斯くて前田其他の數氏より学長に対して種種なる質問を試みたるか学長は之に対して極めて熱心に適切なる答弁を与へらる是に於てか今幡、山浦、内田其他の諸氏より各提案する所ありたるも議長の手許には既に河野其他十數氏連署の上提出したる議案あり先づ之を議することと為りたるか提案者の説明に次ぎ之に對する二三質問ありたる上左の如く満場一致を以て原案を可決したり—吾人は同心協力以て母校の当局を補翼し組織を改め、基金を募り、完全なる設備を整へ、天下に率先し、吾校をして模範大學たらしめんことを期す此目的を貫徹する為め若干名の委員を挙げて必要なる一切の事項を審議決定せしむへし又此際成るべく速に全國學員總會を招集するを適當と認む—尚ほ委員は

理事長、副理事長、評議員會長、同副會長の決定に一任することと為したるか此時大内、寺島、福田、一又、鹽坂、平城、志賀其他の諸氏より極めて重大なる緊急動議の提出あり議長の其提議を朗読するや満場頗る緊張し肅然として沈黙を守ること多し、斯くて福田氏は徐ろに立ちて提案の理由を詳叙し其より河野、山浦、内田、堀江、林等の諸氏より種種なる意見を述べられ結局提案の精神には全然賛成なるも今日之を決議と為すの必要なかるへしといふに帰著し大内氏より動議を撤回することと為りたり其より各自随意に意見を交換し大に奮勵努力すへき旨を申合せて散会したるは十一時を過く其後決議に基き指名せられたる委員は實に左の諸氏なり

理事の部—花井卓藏、林頼三郎、西川一男、太田資時、小栗盛太郎、高野金重、指田義雄

評議員の部—石山彌平、飯田延太郎、一又安平、原嘉道、堀江專一郎、小倉敬止、大場茂馬、大田黑英記、小野瀨不二人、大内省三郎、若尾璋八、川久保源治、河野秀男、加瀬禧逸、川手忠義、横田千之助、横田民藏、田中文藏、武田明、高窪喜八郎、武田鬼十郎、内田清吉、山崎林太郎、山田三郎、前田米藏、福田市太郎、小松林藏、海老原重、新井要太郎、天野徳也、木村精一、三浦大五郎、品川英一、志賀三行、篠崎仙司、平城慈門、鈴木濟美

是に於てか委員諸氏は二月九日午後五時より中央大學に参集して第一回委員會を催したるか花井氏座長席に就き懇談的に目的遂行の方法に付き意見を徴したる所内田、志賀、河野、武田

出席あり会員は三十余名の多数出席し会食後小野瀨不二人氏座長の下に母校の発展策に付き協議を始むるや先づ岡野学長は会員の請ひに応じて母校か目下未曾有の盛況に在り学生は実に五千に近き有様なること並に発展策に付きては学員諸氏愛校の熱誠に頼りて既に確然たる成算立ちつつあること及び経営に関する大体を報告せられ斯くて一同は異議なく『中央大学同窓記者会は新大学令に拠る母校の発展に關し其天職の上より極力之か達成を期し飽く迄其遂行に努力すへし』との決議を為し尚ほ岡野、馬場、佐藤三氏指名の方法に依り本会幹事の改選を行ひたるに井上（報知）、岩本（時事）、堀口（日々）、細野（やまと）、山口（都）、山根（国民）、前田（中央）、關口（毎夕）、杉村（朝日）、最上（万朝）の十氏其選に当り互選の結果井上、細野、前田の三氏常任幹事に當選し本会の為め大に尽力せらるることと為りたり